

第 321 回 役員会議事要旨

日 時 令和 6 年 3 月 28 日 (木) 14 : 30 ~ 15 : 40

場 所 管理棟大会議室 + ウェブ (Teams) 併用

出 席 者

【構成員】 山内機構長、足立理事、内丸理事、岡田理事、幅理事

【オブザーバー】 住吉監事、辻監事、浅井機構長補佐

【管理局等】 五味田総務部長、山崎財務部長、永木研究協力部長、外山施設部長、
幸田参事役、柴沼参事役、坏監査室長、櫻井人事担当課長、佐藤施設企画課長、
柴原東海管理課長

議 事

【 1 】 審 議

(1) KEK における DEI 推進について

内丸理事から、資料 1 に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

なお、各種委員に女性が殆どいないという点について問題があると感じており、そういうことも含めて今後議論いただきたいとの要望があった。

また、KEK の国際諮問委員会からのリコメンデーションの中でも行動規範が大事であり、今後の同委員会の会合において取り組みの状況について報告を受けたい旨の記載があるので、是非推進していくべきとのコメントがあった。

(2) 地球温暖化対策のための計画書

幅理事から、資料 2 に基づき説明があり、審議の結果、本日の意見を踏まえて整理したうえで、新年度の役員会にて改めて審議することとなった。

< 主な意見・質疑応答等 >

・東京電力（東電）から電力を買うだけで、東電が何とかしてくれるはずなので CO₂ 排出量が減っていく見込みであるというシナリオではまずいのではないか。この計画書はどこかで評価されたりしないのか。

→ 中期目標・中期計画に掲げているわけではないので、評価は受けない。2030 年までに温室効果ガス排出量を 30% 削減するという全体の目標については、東電任せになってしまっているが、機構として取り組む個別対策に関する目標も掲げており、機構独自の工夫と言える。

・加速器の運転時間を制約して、それによってカーボンニュートラルを実現するというのでは駄目ではないか。カーボンニュートラルを実現するため、機構としてどういう知恵を出すのかを問われているものとする。

・加速器に対する批判がこれから強くなることが予想される。大量の電力を使用する大型加速器施設として、温室効果ガス排出量を減らす努力をしていますという点と、地球温暖化対策の研究になっていますという点の両方の発信をし続けていく必要があると考える。

- ・政府が 2013 年度を基準としているところ、機構が 2005 年度基準としている点について合理性はあると思うが、指摘される可能性があるため別途政府基準の場合のシミュレーションもしておくべきと考える。また、今後環境への貢献等が予算配分にあたって影響することも考え得るため、そういうことも考え作戦を練った方が良いと思う。

以上